

第 42 回

2018 年 6 月議会・9 月議会合併号

せりざわ正子の 新市議会だより

〒270-1164 我孫子市つくし野 7-23-11

芹澤 正子



6 月議会質問中 【本日は、たたかうおばさん！】

平成 30 年 6 月 議会 個人質問 から

◆ 財政再建に向けて 今後どうする？

Q : 増加していく民生費に対処しなければならない我孫子市は、本当に必要なものだけに予算を使っていくべきだと思うが？

A : 市税を初めとした歳入が伸び悩む中、社会保障関係費は増加を続け経常的収支が年々厳しい状況にある。平成 30 年度予算編成第 9 期実施計画の策定も、真に必要な事業を採択した。水害対策やクリーンセンターの整備など直面する課題に対応しながら、我孫子の魅力をさらに高める事業や雇用創出へつながる事業などに取り組んでいく。

◆ 3 月末に全戸配布した「ハザードマップ」は優れもの

Q : 国土交通省の利根川堤防決壊の想定と調整しながら、年度末ギリギリで発行できた。行政の災害弱者の把握の現状と、実際に助ける仕組みは？

A : 平成 28 年から避難行動要支援者名簿を作成している。この名簿は、災害対策基本法に基づき、必要時には避難支援等関係者に対して提供、平常時には市と協定を締結した自治会などに提供し、避難支援や安否確認などに活用することとしている。

Q : 自治会への防災訓練の補助金は、避難場所まで歩いてみる事を条件にしては？

A : 自主防災組織は、実情に応じて情報伝達や初期消火・炊き出し等の訓練を実施しているので、今後も、訓練内容を限定せずに補助金の交付を行う。

(※次頁に続く)

つくし野夏まつり

7 月 30 日 (日)

櫓の上で 連の皆様と一緒に フラもふくめて全曲！踊りました



皆様のご了解を得て、一部お顔を隠して掲載

◆ 私は、我孫子市男女共同参画宣言都市の宣言文を作ったひとりです

Q : 平成4年に女性施策担当を設置以来、様々な施策を行ってきた。市の現状・経過・取組・男性職員の育児休業や介護休暇の取りづらいつ況は改善できているか？

A : 平成13年に、男女共同参画宣言都市を千葉県で唯一宣言し、平成18年には男女共同参画条例を制定した。更に、平成26年6月には【男女共同参画宣言塔】を市役所に設置した。（写真参照）

平成28年10月に市長を初め率先してワークライフバランスに取り組む「イクボス」を宣言するなどして、推進の取り組みを行ってきた。我孫子市では、男女共同参画プランに掲げる85の事業への取り組みを始め、市民への啓発事業として講演会を6月と10月の2回開催する他、情報誌「かがやく」を年2回発行している。男性職員の育児休業取得は、平成28年度1名、29年度なし。介護休暇取得は、29年度2名のうち男性は1名。平成30年の意識調査では、男女共同の意識は高くなったが、一方で、職場や慣習、しきたり等の分野では、男性が優遇されているという回答が多くあった。これらを踏まえ、男女共に仕事と家庭生活、地域活動が両立できる支援、広報等の啓発に取り組んでいく必要があると考えている。



平成13年に、千葉県で唯一の【男女共同参画宣言都市】の宣言文作成に参加しました

◆ どんどん進んでいる治水対策

Q : 平成29年度の治水工事の進捗状況の中で特記事項は？

A : * 関東排水区の事業は、今年度で全て完了予定。柴崎排水区のうち、後田樋管整備事業は今年度完了予定、柴崎完成整備工事Ⅰ工区は10月末に完了予定。若松第1から第5排水区は、第3排水区Ⅱ工区は5月末完了し、第3排水区Ⅲ工区は、引き続き工事を進める。第4排水区Ⅰ工区に着手し、今年度中に完了を目指す。布佐排水区については、幹線整備工事Ⅰ工区に着手予定。天王台6丁目地区は、天王台南公園内に整備した暫定貯留浸透に接続する雨水幹線整備工事に着手、平成31年度完了を目指す。

* 我孫子4丁目調整池上部のグラウンドカバーの工事は5月末に完了。現在植物の養生中。

* 若松地区は、支障物件の移設等により平成31年度から34年度に完了予定を延長し、4月28日の住民説明会で地元の了解は概ね得られた。

◆ これからも住み慣れたこの地域で自立した生活をずっと続けたいですね

Q : 医療と介護の連携・高齢者なんでも相談室・成年後見制度・レスパイトケア入院について

A : まずは、どんなことでも「なんでも相談室」にご相談してほしい。医療サービスは、医師の診断により治療方針を決定し、医師の指示により医療行為を行っている。介護サービスは、ケアマネジャーが利用者本人と面接し、本人の心身の状況や生活歴などから課題を分析して助言を行い、サービスの提供を決定している。両方必要な場合は、連携を図り調整していく。市内の医師の総数は、千葉県衛生統計年報では平成28年度に150名まで増加している。個別課題解決を目的とした地域包括ケア会議は、平成28年度に13回、29年度は15回開催。政権後見人制度の利用は、生活保護受給者等を対象に要

件を定め、費用の一部または全額を負担している。親族がないなどの理由の場合は、任意後見制度の案内をしている。レスパイトケアとして、被介護者が介護保険施設の短期入所を利用することで在宅介護をしている介護者の日頃の負担の軽減を図っている。ターミナルケアで苦勞している家族も、「なんでも相談室」に問い合わせをして下さい。

◆ 支援を必要とする子どもの数が増えてきている

支援員制度で細やかに支援を受けられる状況ができ、保護者もできるだけ普通学級にという考えだけでなく、子どもが心配、積極的に相談をして子どもに沿った支援を考えている視点もあるでしょう。

Q：学習障害などについて。普通クラスと支援学級との交流の現状は？

A：障害の有無にかかわらず、誰もが望めば合理的な配慮のもと地域の普通学級で学ぶという【インクルーシブ教育】システムの構築に向けて、我孫子市でも各小中学校において、交流及び共同学習を推進している。支援学級の児童・生徒一人一人について、どの学習を通常学級で行うのか、支援学級担任と通常学級担任が保護者と面談の上、交流時間を設定している。学習だけでなく、給食の時間や朝の会、帰りの会、学年・学級の行事等の交流も、全ての児童生徒にとって非常に有意義な活動であり、今後も積極的に推進していく。

Q：支援学級について、現状の把握・分析・対応についての意見を伺う。中にはもっと早期の取組が必要だったという場合もあるかと思うが？

A：保護者にとって我が子の進学先については、最後まで悩むところだ。教育委員会としても、就学については一人一人の子どもと保護者に寄り合いながら、きめ細かく対応している。発達センターや小・中学校、特別支援学校等と連携をとりながら就学先についての的確な情報提供ができるようにしている。教育研究所では、就学に向けて特別支援学校、特別支援学級の説明会、見学会、体験会を実施している。説明会と見学会は、就学年度だけでなく、その前の学年から参加することが可能なので、実質2年間かけて就学先を決めていけるようにしている。随時相談を受け付けているので、ぜひ気楽に相談して下さい。

Q：テレビやスマホに夢中になる子どもたちの、その弊害の大きさは現代が抱える病気だともいえる。我孫子市でも、昼夜逆転、不登校、暴力など大きな問題になる場合はあるか？学校からメディア関連で児童・生徒への指導はどのようになされているか？

A：我孫子市も同様の事案をかかえています。小中一貫教育カリキュラムの中で、情報モラル教育を通じてコミュニケーション力、豊かな心の育成を図り、写真、動画、メール、SNS等の使い方を通して携帯電話、スマートフォンを適切に使い、コミュニケーションをとれるようにすることという狙いを持って、各小中学校で発達段階に応じた指導を行っている。また、保護者会の場合や学校だよりにおいて、家庭でもその功罪について十分に理解した上で利用させるように協力を呼びかけている。今後も時代の流れによってテレビやスマートフォンに関連する様々な問題を、学校・家庭で情報を共有しながら適切に対応していく。

久寺家中央商店会 にも

地元で長らく頑張っているお店があります

ミート大山 ... 店内のご希望の品で各種の揚げ物を致します

八百正 ... 新鮮野菜の他、カットフルーツ盛・漬け物盛合せも好評

とちぎや ... 夜9時まで営業 やぶ庄 ... 本格的な手打ちそば



◆ 治水対策事業は大きく成果をあげました!!

星野市長のこの三期の業績の筆頭に挙げたいのは、治水対策が大きく進展したこと。今後、治水対策に一応の目途が立った後は、道路冠水の部分はお互いに我慢して、災害時、市民の命を守る目的のためと、被災時の避難場所の整備に予算を使っていただきたい。

Q：星野市長が治水対策に取り組むことになった経緯と、残された今後の課題をお伺いする。

A：市長に就任した平成18年6月に、一時間当たり83.5ミリの局地的な集中豪雨が発生し、我孫子地区を中心に床上・床下合わせ96軒の浸水被害が発生した。その後も、平成20年8月の局地的な集中豪雨や平成25年10月の台風26号などで多くの浸水被害が発生し、これらを目の当たりにして改めて対策の重要性を認識した。そこで、水害対策事業を第二次基本計画の重点プロジェクトとして、積極的に取り組んできた。8地区のうちの6地区について最優先で水害対策を行い、昨年度までに2地区を完了。今後も国の交付金を活用しながら、未着手2地区を含む残り6地区の対策を着実に進めていく。

Q：ハザードマップは、浸水想定区域や、緊急避難場所などのついて、他市のものと比較しても優れていたが、各家庭での備蓄品や、避難場所の確認など、市民へのPRが不十分だと思うがいかがか？又、トリアージは誰が行なうのか？

A：我孫子市では、災害時、市内8病院に救護所を設置し、病院医師や、医師会の医療救護班などと連携し、医療救護活動を行う。トリアージは、救護所で、医師会の医療救護班が行います。市内8病院に、年に1カ所づつ、順次備蓄を進めていく予定。

Q：8年もかかるのは遅すぎ。

A：早期に病院と協議をしながら対応する。

Q：8月末に配布された「我孫子市避難行動要支援者避難支援の手引き」は、20頁にまとまっていて必要事項が網羅されていた。今後、市はできるだけ早く全自治会が要支援者の名簿を整備し、実際の災害時に要支援者の命を救えるように準備をして頂きたい。急務です。神戸大震災の時も、実際に瓦礫の下から埋まっている人達を助けたのは、近所の人や殆んどだったと、2年前の議会で私は述べている。

A：災害時の共助は重要。事前に行われるように、名簿の活用について進めて行きたい。

◆ 小・中学校の環境整備・改修に更なる取り組みをしていく

A：未だ実現できていない事の一つは、我孫子中学校や我孫子第三小学校などのトイレ改修を含めた大規模改修。又、今後、小・中学校の体育館への空調設備の整備。全市展開に向け、小中一貫教育の推進にも力を入れて取り組んでいく。

せりざわ正子の市政報告会

多くの皆様のご参加、ありがとうございました

■第1回 6月24日(日) 参加者 45人
つくし野コミュニティホール

■第2回 9月30日(日) 参加者 55人
我孫子北近隣センター並木本館 多目的ホール

